

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

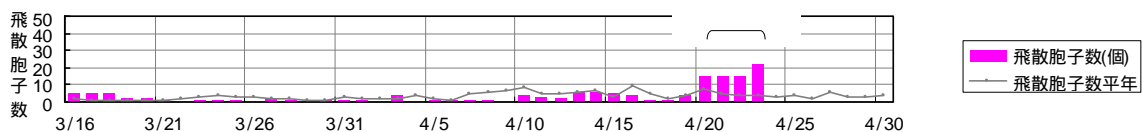
病害虫防除技術情報（第 1 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願いたします。

記

- 1 作物及び病害虫名 麦類の赤かび病
- 2 赤かび病菌子のう胞子の飛散状況と今後の対策について
 - ア) 赤かび病菌子のう胞子の飛散量調査では、松山市で 4 月 20 日以降急増している（図）。
 - イ) 高松地方気象台の 1 か月予報（4 月 20 日発表）では天気は数日の周期で変わり、気温は、平年並または高い確率ともに 40%、降水量は、多い確率 50%とされ、発病に助長的である。
 - ウ) 多くの圃場では、開花期（1 穂につき数花開花しているものが、全穂数の 40～50%）を越えているが、開花から約 10 日間は感染しやすい時期が続くため、今後の生育状況と気象条件に応じて 2 回目の防除実施を検討する。播種時期が遅かった圃場では開花期前後と推定され、そうした圃場で 1 回目の防除が実施されていない場合は早急に必要な実施がある。
- 3 被害
 - ア) 赤かび病は穂で発病し、激発すると収量、品質に大きな影響を与えるだけでなく、赤かび病菌が産出するカビ毒の食品汚染が問題となるため、被害粒の混入が 0.0%（1 万粒中 4 粒以下）を超えないよう、発生を極めて低いレベルに抑えることが求められる。
- 4 防除上の注意
 - ア) 本病の一次感染時期は開花期で、開花から約 10 日間は最も感染しやすく、この時期に温暖（気温 15 以上）で連続した降雨がある場合に発生が多くなる。
 - イ) 開花期の防除は必須であるが、防除後も温暖多雨で経過する場合には、さらにその 7～10 日後に 2 回目の防除が必要となる。
 - ウ) 防除薬剤は、トップジン M 剤、トリフミン剤、ワークアップ剤等を使用する。なお、トップジン M 剤は、麦類（小麦を除く）で出穂期以降 1 回以内、小麦で出穂期以降 2 回以内の使用となっているので、十分注意する。また、周辺作物へドリフトさせないように注意する。

調査地点 松山市難波



調査地点 西条市丹原町池田

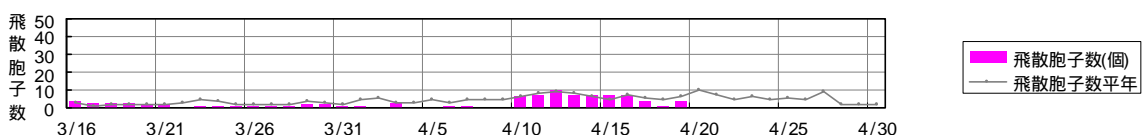


図 麦類の赤かび病菌子のう胞子の飛散状況
(松山市：平成 24 年 4 月 23 日、西条市：平成 24 年 4 月 19 日までの結果)
(スライドグラスに付着した胞子を、面積 18×18 mm 分カウント)
子のう胞子飛散量の急増時期

赤かび病菌子のう胞子飛散量調査は、農林水産研究所病害虫防除所ホームページに掲載しています。